

JTU きょうと教組

日本教職員組合

NEWS LETTER

2021年7月1日発行 No.153

京都府教職員組合 小鍛治 啓

Kyoto School Staff Union

Tel: 075-252-6771

Fax: 075-252-6772

<http://kyoto-union.net>

第32回きょうと教組定期大会

これから先を見据えて

きょうと教組は6月26日、第32回定期大会を開催しました。コロナ感染状況が収束しない中、今年度も規模の縮小を余儀なくされましたが、新たな試みでWeb併用での開催となりました。

冒頭あいさつで小鍛治委員長は、「対面で伝え合うことの大切さをこの間感じてきている。限られた中ではあるが、今の状況を交流し合い、今後の組合活動の取り組み方向を共有しつつ、元気の出

る定期大会にしたいと思っている。忌憚のない活発な意見交換をお願いしたい。」と、大会の意義、きょうと教組の活動の意義を訴えかけました。また、勤務校での作業中のけがが原因で6月10日に亡くなった、京都八幡高校南キャンパスの栗山良平さんの報告がありました。「彼の仕事にける誇りと、途中で倒れた無念さを共有できたらと思う」「二度と同じ過ちが起きないように、職場の改善をめざし、組合として取り組んでいく」としめくりました。

第1号～第5号議案まで、執行部提案の後、討論を経て、執行部提案はすべて承認されました。

初めてのWeb併用のため、スムーズにはいかない部分もありましたが、終始、会場とWeb参加者との間の声の掛け合い等があり、和やかな空気の中での進行でした。5月に加入した新規組合員の発言もあり、組合員1人ひとりの声を互いに「聞く」ことが、組合活動の原点だとあらためて感じる事ができた定期大会となりました。



大会での議論

現場の課題、疑問・・・

まずは、共有することから



＊小学校で新採指導の立場で勤務している。新規採用者の感じが以前とは変わってきている。子どもへの対応で不安な面がある。

＊小学校1年生の学びとして勤務している。学校の全体の様子は見えづらい。担任たちはとても忙しそうで、授業準備の時間

もあまりとれていないのでは、と感じてしまう日々の授業の様子である。気にはなるが、立場上子どもたちのサポートに徹している。

＊高校で化学、生物を担当している。来年度1年生から電子教科書での授業に取り組むが、電子機器に不慣れな者もいる。この間、対面型の実験・実習はほとんど行われていない。教科書会社は、これが都合がいいのか資料やビジュアルを重視した教材を売り込もうとしている。今後さらに「失敗のできる」対面型の実験・実習が減ってしまうのではと危惧している。

＊まもなく定年を迎える。人権担当として長年取り組んできたことを次につなぐことを考える。つなぐというより、一緒に実践するなかまがいて、時の流れとともに世代がずれていくことで、つないでいる状態になる。そのためには人権担当者の複数配置が大事だと考えている。体制として継続していける人の配置が必要。

＊組合の活動は、後につないでいく体制を考える必要がある。いくつかの専門部がある中、特に女性部の重要性を感じている。今年度は、なんとか女性部の活動を楽しくやりたい。

＊先日亡くなった栗山さんと同じ職場である。栗山さんは技術職員としての専門的な作業だけではなく、教室に入れない子、「やんちゃ」な子、また、在校生のみならず卒業生とも関わるなど、いろいろな面で、学校を支えてくれていた存在であった。彼を失ったことは、学校にとっても本当に残念である。

＊技術職員の方が、けがをされるということを以前の勤務校(他府県)で経験したことがあり、その時から、二人体制を求めてきた。樹木の剪定、蛍光灯の交換など高所での作業など危険を伴う仕事は多い。

＊栗山さんの事故について、生徒が「こんな広い敷地なのに作業するのは一人？二人でするものではないの？」と素朴な疑問を話していた。安全を守るルールについて改めて意識する必要があると感じている。その旨、衛生委員会場で管理職に申し入れをした。

＊高校で福祉科を担当している。本来、施設への実習が主体になるのだが、この2年間、実習は実